博士論文を発展させた研究成果の公表について
－ Developing and publishing your doctoral thesis －

関西学院大学　小田涼

１．博士論文の執筆の進め方　★シングルからアルバムへ／アルバムからシングルカット

(a) シングルからアルバムへ
学会で数回研究発表を行い、同時に学会誌などに論文を数篇発表して、発表した数篇の論文（シングル）の内容を修正し、それらをまとめてアルバムとしての博士論文を執筆する
(b) アルバムからシングルカット
学会発表や論文投稿などをせずにいきなり博士論文を提出して、その後、博士論文のダイジェスト版や全体をいくつかのパートに分割した論文などを発表する

「シングルからアルバム」方式のメリット
(1) 学会発表や論文発表によって研究者としての業績を積むことができる
(2) 自分の研究・主張・仮説について、検証を受けることができる

発表した論文をそのままコピー&ペーストしてつなぎあわせるのではなく、それぞれの論文の連関に注意して、博士論文全体として統一的なヴィジョンを提示する

★研究テーマの選び方：広がりのあるテーマ、発展性のあるテーマを選ぶ
(a) A 地点を深く掘り下げるとともに、横にもどんどん掘り進めて、発展させてゆくことができるようなテーマを選ぶ。大きな枠組みの中で自分の研究を捉えられるようにする。
(b) A 地点を少し掘って、次に B 地点に移ってそこをしばらく掘って、次に C 地点に移ってそこを掘る。しかし、A 地点と B 地点と C 地点とのあいだにつながりはない。

A 地点と B 地点と C 地点とがつながっていくような研究なら良いが、発展性のない孤立した研究テーマを主たる研究テーマとするのは避ける

2. 博士論文の公表について
★2013 年 4 月 1 日以前の学位規則（昭和 28 年文部省令第 8 号）：博士の学位を授与された者は、当該学位を授与された日から一年以内に、その論文を印刷公表するものとする。

★2013 年 4 月 1 日以降の学位規則：博士号取得者は、学位を授与された日から 1 年以内に博士論文の全文をインターネットの利用により公表する義務がある。

3. 博士論文を出版する
今後の博士論文はウェブ上で全文が公表される
⇒　博士論文をそのまま書籍として出版することは少なくなると予想される

本にして出版するということは、自分と同じ専門分野の研究者だけでなく、領域を超えて読まれる可能性があるということ

★日本学術振興会の出版助成金を申請する
(1)申請書類で、自分の研究および自分の本が独創的な知見を含んだものであり、その研究分野および周辺の研究分野に影響を及ぼしうるものであると説明
(2)それまでの業績および研究歴

★出版社を選ぶ
(a1) 出版依頼を受けたものを出版するかどうか、社内で議論・審査して決める出版社
(a2) 出版について厳密に審査をしない出版社

(b1) 自分の専門分野に強い出版社を選ぶ
(b2) 自分の専門分野に強いとは言えない、総合的な出版社を選ぶ

(b1)のメリット：その分野を得意とする編集者がいて、より専門的なアドバイスがもらえることが期待できる。また、自分と同じ専門分野の研究者に対して宣伝効果が高い。

(b2)のメリット：より幅広い読者層を想定して本を書きなおすことが求められるため、専門分野が異なる研究者にも新鮮に手にとってもらえる

★発展性のあるテーマを扱った研究のほうが広い読者層にアピールできるため、出版に結びつきやすい

4. 博士論文を書きなおす

★博士論文と本との読者層の違い
博士論文は、同じ専門分野の研究者が読む
本は、専門分野の異なる人にも読まれる可能性がある

博士論文よりも本のほうが読者を楽しませるための工夫がしやすい（コラム、エピグラフなど）

博士論文は、指導教官から専門的な指導をしてもらって完成させるもの
書籍は、編集者からアドバイスをもらって完成させるもの

本作りは書き手と編集者との二人三脚

[参考文献]
東郷雄二『文科系必修研究生活術』筑摩書房、2009 年。